

土木学会 原子力土木委員会 津波評価部会 第2回 議事録

日 時：平成19年8月27日（月）14:00～16:00

場 所：鹿島建設

出席者：首藤主査，栗山委員，佐竹委員，福濱委員，平田委員，蛭沢委員，星氏（四家委員代理），松本委員，中嶋委員，東川委員，村本氏（秋山委員代理），川本委員，浅野委員，大坪委員，高岡委員，榊山委員，藤井幹事，池野幹事，松山幹事，安中幹事，山木幹事，稲垣幹事，木場幹事，金戸幹事

次 第：0. 主査挨拶

1. 前回議事録の確認
2. 津波評価部会の概要（資料1）
3. 津波による海底地形変化の研究
 - 3-1 津波砂移動実験（資料2-1）
 - 3-2 矩形港湾実験 計測時系列波形（資料2-2）
 - 3-3 モデル港湾実験 計測時系列波形（資料2-3）
4. 実験見学
5. 質疑応答
6. その他

議 事：（Q：質問，C：コメント，A：回答）

幹事団より，各資料に基づき報告がなされた。その際，以下の質疑応答，コメントがあった。

1. 津波評価部会の概要（資料1）

（特になし）

2. 津波による海底地形変化評価手法の研究，実験見学，質疑応答

C：濁度計測結果の小さな振幅は何を計測したものか。数値計算を実施する場合どこまであわせる必要があるかに関わる。

C：実験をみると砂漣ができています。砂移動に対する砂漣の影響をおさえておいた方がよい。

Q：実験データはどのように整理していくのか

A：浮遊砂濃度と流速から計算のフラックスと比較する。

C：データが膨大な量になるが、実験結果と解析結果の比較をする上で、何がはずせないかを押さえる必要がある

C：実験をみると港内から港外へ砂がでていっている。中から外へでた砂の量をおさえておく必要がある。港の外も計測するようにした方が良いのではないか

Q：港湾の大きさが砂の移動量に影響するのではないか。

A：港湾の大きさも影響すると思われるため、周期を変えた実験を行うこととしている。

Q：実験の状況をビデオ撮影しているか

A：上からビデオ撮影を行っている。

Q：実験後の地形計測はいつ行っているのか

A：実験終了後一晩おいた後計測を行っている。

C：地形計測については、計測領域を分割して、領域ごとに侵食・堆積をチェックする方法も考えられる。

3. その他

(中越沖地震時の津波について)

C：能登の時も柏崎港の水位が大きかった。釧路港では港内で共振して大きくなったことがあるが、柏崎港は1波目が大きいのでその可能性はないと思うが。

Q：津波を計測している地点の地盤があがったりしていないか

A：確認できていない。

Q：発電所で津波記録はとれていないか

A：港内の波高計でデータを取得できていることは確認している。現在、短周期成分、港内の幅振動成分等の除去処理を実施している。

C：低気圧が通り抜けた後の記録も検討してみると、港の共振ものぞいて津波の記録が見ることができる。

以 上